

各関係機関長 様

熊本県病虫害防除所長

果樹カメムシ類の果樹園への飛来開始時期（技術情報第6号）について（送付）
このことについて、下記のとおり取りまとめましたので、防除指導に御活用ください。

記

果樹カメムシ類がヒノキ球果から離脱し、果樹園に飛来し始める時期は、8月下旬～9月中旬が見込まれる。総じて平年より遅い傾向であるが、ヒノキ林に近い園地や台風襲来後は突発的に飛来することがあるので、園内をよく観察し、早期発見と初期防除を心掛ける。

1 発生状況および果樹園地への飛来開始時期

- (1) 夏季はヒノキ・スギ林で越冬成虫から新世代に入れ替わる時期である。新世代は、ヒノキ・スギの球果が餌として好適な期間は山林内に留まるが、餌が劣化すると離脱して果樹園へ飛来するようになる。
- (2) 今年のヒノキは、着果量の多い地点が多く見られることから、長期に渡って餌が不足しない可能性がある（表1）。
- (3) 7月上旬以降に6地点で行ったヒノキ結果枝のビーティング調査では、ヒノキ球果上の発生は8月上旬現在で平年並であった（表2）。
- (4) 7月下旬に採取したヒノキ球果におけるカメムシ類の口針鞘数は、全6地点の平均2.1本/果（平年4.7本/果、前年4.1本/果）と、平年比、前年比ともに少なかった（表3）。同時期の口針鞘数から予測されるヒノキからの離脱開始時期は8月下旬～9月中旬であり、総じて果樹園地への飛来は平年より遅い傾向が予想される（表4）。

2 防除対策

- (1) 今後の山林から樹園地への飛来は、平年より遅いと思込まれるが、ヒノキ・スギ林に近い園地や台風襲来後は、突発的に飛来することがあるので、病虫害防除所のホームページ(<https://www.pref.kumamoto.jp/soshiki/75/201915.html>)に掲載している「予察灯・フェロモントラップ誘殺数」を参考に早期発見及び初期防除に努める。
- (2) 飛来時期や量は地域や園地による差が大きく、同一園内でも局在するため、園内全体を観察する。また、山間部や山沿いの園では、発生が集中する場合もあるので、特に注意する。
- (3) 果樹カメムシ類は日没直後に園外から侵入し、翌朝飛び去るため、夕方や早朝の防除が有効である。
- (4) 薬剤の使用回数、濃度、使用量、使用時期を遵守するとともに、周辺作物への農薬飛散（ドリフト）に注意する。また、付近にミツバチの巣箱が設置してある園では、事前にその管理者に連絡するなど、農薬による危害防止に努める。
- (5) ピレスロイド系剤（IRACコード：3A）は、ミカンハダニやカイガラムシ類のリサーチェンスを起こすので、同系統の薬剤を使用した場合は、これらの害虫の発生に注意する。

表1 ヒノキ球果の着果量

調査地域	調査地点	着果量	
		2025年	2024年
熊本地域	熊本市(河内)	やや多	やや多
宇城地域	宇城市(松橋)	多	やや多
	宇城市(三角)	やや多	中
菊池地域	合志市(栄)	やや多	やや少
天草地域	天草市(上島)	-	-
	天草市(下島)	-	-
平均		やや多	やや多

※福岡県が作成した評価基準を参考に、ヒノキ球果の着果量を極多～極少の7段階で評価した。

表2 ヒノキ球果枝のビーティング調査による地点当たり寄生虫数(頭/5枝)

調査年次	7月上旬	7月下旬	8月上旬	8月下旬	9月上旬	9月下旬
2015年(H27)	0.00	1.00	1.00	0.50	0.25	0.25
2016年(H28)	0.25	0.25	1.00	1.25	0.50	0.00
2017年(H29)	0.50	0.50	1.00	2.25	2.75	4.00
2018年(H30)	15.00	18.00	5.00	2.50	1.50	-
2019年(R1)	1.50	3.00	8.50	9.25	12.50	-
2020年(R2)	0.25	1.50	3.00	0.50	0.25	-
2021年(R3)	1.00	6.50	4.30	8.00	5.75	5.30
2022年(R4)	3.30	6.50	4.30	3.50	2.80	5.50
2023年(R5)	1.00	2.75	3.50	4.00	9.00	20.50
2024年(R6)	3.00	3.50	5.00	1.00	1.50	1.50
平年値(過去10年)	2.58	4.35	3.66	3.28	3.68	5.29
2025年(R7)	3.83	2.83	4.17			

- 1) ヒノキ球果が着生した枝に網をかぶせ、寄生虫をたたき落とし、1地点当たり5枝に寄生する成幼虫数を調査した。
- 2) 調査地点は熊本地域1、宇城地域2、菊池地域1、天草地域2の6地点。過去の調査は天草地域を除く4地点。

表3 ヒノキ球果の口針鞘数(本/果)

調査地域	調査地点	R7年 7月下旬
熊本地域	熊本市(河内)	0.7
宇城地域	宇城市(松橋)	0.5
	宇城市(三角)	6.3
菊池地域	合志市(栄)	0.9
天草地域	天草市(上島)	3.4
	天草市(下島)	0.5
平均値		2.1
前年値		4.1
平年値(過去10年)		4.7

※数値はヒノキ球果1果当たりの平均口針鞘数(各地点30果調査)

表4 ヒノキ球果からの離脱開始予測日

調査地点	離脱予測日						平年 (R2~R6)	平年比
	本年(R7)	前年(R6)	R5	R4	R3	R2		
熊本市(河内)	9月11日	8月21日	8月28日	9月11日	9月10日	9月13日	9月4日	7日遅い
宇城市(松橋)	9月12日	9月2日	9月8日	8月23日	9月3日	9月7日	9月2日	10日遅い
宇城市(三角)	8月22日	9月8日	8月24日	8月26日	9月7日	8月31日	8月31日	9日早い
合志市(栄)	9月12日	8月30日	9月10日	9月4日	9月6日	9月13日	9月6日	6日遅い
天草市(上島)	9月1日	8月19日	8月31日	7月26日	7月21日 [※]	9月11日	8月15日	17日遅い
天草市(下島)	9月12日	8月29日	9月7日	7月22日 [※]	9月12日	9月12日	8月28日	15日遅い
平均	9月6日	8月28日	9月2日	8月18日	8月30日	9月9日	8月30日	7日遅い

<予測日の算出方法>

福岡県農業総合試験場が開発した予測式により算出した。

$$\text{予測式： } Y = 54.17 - 3.776X + 0.01937X^2$$

Y：調査日から離脱開始日までの日数、X：7月下旬のヒノキ球果1果当たり口針鞘数

Xは小数点第二位を四捨五入、Yは小数点以下切り捨て

※予測式による計算値がマイナスになった場合は離脱開始日までの日数を0とした。

熊本県病害虫防除所
 (熊本県農業研究センター生産環境研究所内)
 担当：清永 TEL：096-248-6490